

わかしお便り

Vol. 57

Wakashio Dayori
2022.7.25

CONTENTS 原料小麦情報……シカゴ市況、麦価・粉価動向など
市場トレンド情報……‘ちばふん’目線で最近の食品市場をご案内
新製品発売状況……イチオシ製品のご紹介
雑感



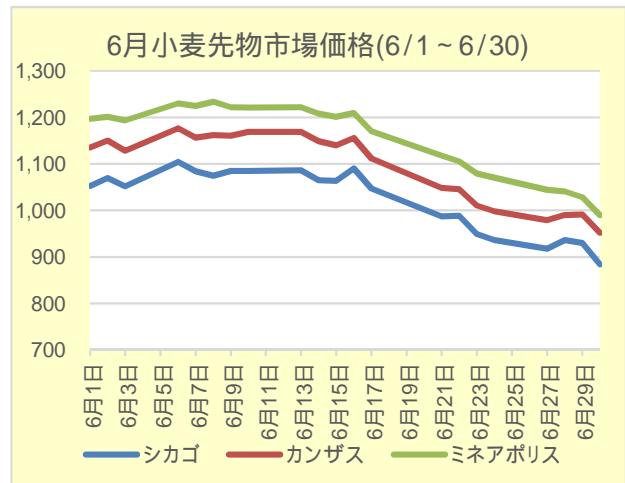
冬小麦収穫圧により相場下落 4カ月ぶり8ドル台まで値を下げる

6/1~30までのシカゴ穀物相場(9月限)は¢884~1,104/ブッシェル(bu)のレンジで推移しました。

5月下旬以降、ウクライナからの穀物輸出の再開を期待した売りと、その反動買いが交錯したことで6月上旬のシカゴ相場は横ばいとなりました。10日にUSDA(米国農務省)より発表された需給報告では、ロシアの生産見通しが上方修正された一方、インド・EUの生産見通しが下方修正されましたが、相場に大きな影響を与えるほどの内容ではありませんでした。

中旬以降は米国冬小麦の収穫進捗が売り圧力を強めたほか、米国での利上げが景気後退懸念を生み、商品市場から投機資金を引き揚げる動きが加速したことで相場は下落基調となりました。30日にはUSDAより発表された四半期在庫と作付推定が共に市場の予想を上回ったことで相場は下落し、シカゴ相場は2月以来4カ月ぶりに8ドル台まで値を下げました。

米国生産地では6月に入り定期的に降雨が確認されるようになり、干ばつ状況は改善傾向にあります。



依然として継続的な降雨が必要な状況です。7/3時点の冬小麦の主要18州におけるG/E(優・良)率は31%(前年同時期47%)となっており、地域によっては十数%という記録的低水準となっているところもあるようです。一方米国春小麦は産地の西部で豪雨、東部では干ばつと地域差が大きいものの、主要6州の平均G/E率は66%となっており、干ばつの影響を大きく受けた昨年同時期の16%と比べ作柄は向上する見込みとなっています。



国内産小麦について

ロシアのウクライナ侵攻は、今もなお世界から注目される事案です。一刻も早く平和が訪れることを弊社も祈るばかりでございます。世界第5位の小麦輸出量であるウクライナへの軍事侵攻は世界的な食糧危機を招きかねないと危機感が広がっており、実際に22/23年度のウクライナの小麦生産量は2,150万トンと、前年度(3,301万トン)比35%減少と予想されています。こうした輸入麦の高騰への不安がある情勢の中、日本では国内産小麦に注目が集まっている状況です。

小麦の国内自給率の用途別に見てみますと、パン用3%、中華めん用6%、日本めん用60%、菓子用14%、家庭用5%という指標がでており、やはり日本の食文化である日本めん(うどん、素麺、冷麦等)での使用率が突出しております。皆様もこの時期ですとお中元用の進物に乾麺を重宝されているのではないのでしょうか。

注目を増している国産小麦ですが、現在国内の秋播き小麦は収穫時期を迎えております。(既に収穫が終了している地域もあると思います。)寄稿者である私も、6月に千葉県野田市にある生産圃場に伺う機会を得ました。初めて千葉県で小麦生育圃場を訪れ、刈り取りを待つ麦畑を見て非常に感動いたしました。「国内産小麦使用」や「地産地消」をコンセプトとしていらっしゃるオーナーの皆様、ぜひとも弊社千葉県産小麦粉「ふさの麦」をよろしくお願ひ申し上げます。

日本国内産小麦の一大農産地と言えば北海道です。収穫量で言えば国内産小麦の約66%が北海道産小麦となっています。7月には北海道農業研究センター芽室研究所に伺う機会があり、改めて北海道のスケールの大きさを体感いたしました。当社も多く取り扱っております北海道産小麦ですが、一部紹介させていただければと思います。

「きたほなみ」は2011年からそれまでのホクシンに代わり本格生産に入った品種です。単収に優れ、現在では北海道産小麦の主流となっております。中力粉クラスのタンパクを要し、特にめん用、菓子用として高く評価されている品種です。弊社製品では「花象 麺の誉」がきたほなみ100%使用の銘柄となっております。

「春よ恋」は「国内産小麦でパンづくりを」という農家さんの熱い思いから生まれた「ハルユタカ」の後継品種として2000年に誕生した銘柄です。4月頃種をまき、9月頃に収穫される春小麦で、たんぱく質含量が高く、製パン性に優れています。北海道産小麦独特のもちもちとした食感が楽しめ、パンのみならず麺やピザなど様々な面で活躍する銘柄となっております。弊社製品では、「花象 春よ恋100」がこちらの品種を100%使用した銘柄となっております。

国産小麦の普及とそれに伴う販売増が、日本の食料自給率向上に役立つ！そんな思いからここまで国内産小麦について書いてきましたが、世の中の流れは思わぬ発想を生み出しております。先日参加した外部展示会にて、食用コオロギの生産と販売をされているベンチャー企業のお話を伺う機会がありました。この頃よく耳にされるとと思いますが地球にやさしい昆虫食です。私も正直抵抗感はありますが、昆虫食の意義はローコストで、かつ短期間でたんぱく源の確保が可能な点にあるそうです。持続的な地球環境には避けては通れないトレンドとなるのでしょうか？

今後も小麦粉関連のトレンドを中心に、幅広い食にまつわるトレンドを発信していきます。

(S.K)

新製品発売状況



ケーキドーナツミックス202

沖縄県は、2022年に本土復帰50周年を迎えます。これを記念して、様々なイベントやキャンペーンが各所で行われています。コンビニ各社においても、黒糖や紅芋などを使用した様々なスイーツが販売されていました。コロナ渦でなかなか旅行にも行きづらい中、沖縄の名物を食べることで少しでも旅行気分を味わえるのではないのでしょうか。

今回は、沖縄のお菓子であるサーターアンダギーについて紹介いたします。沖縄の方言で「サーター」とは砂糖、「アンダギー」は油で揚げたものという意味だそうです。油で揚げて作る沖縄風のドーナツであり、サクサクとした食感が特徴です。ドーナツといえば、真ん中に穴が開いているリング状のものが一般的ですが、サーターアンダギーは生地を丸くして油で揚げます。揚げている途中で生地の中が割れることで、チューリップの花が咲いたような形になります。

弊社のミックス粉「ケーキドーナツミックス202」を使用して、手軽にサーターアンダギーを作製することができます。是非一度お問い合わせください。



雑感

海の日も過ぎ、通勤時に学生を見かけることが途端に減りました。もう夏休みの季節です。学生、夏休みというと、筆者は夏の高校野球が頭に浮かびます。読者の皆様の中には実際に球場まで応援に行く、という方もいらっしゃるのかなと思いますが、今回の雑感ではそんな時にあると嬉しい涼感グッズについて触れています。筆者はアイスリングというグッズを初めて知りましたが、調べてみると電源も必要ないようなので、雨に濡れやすい自転車通勤にも使えそうだなと感じました。この暑い夏、元気に乗り切るためにも、読者の皆様もお気に入りの冷感グッズを探して見るのはいかかでしょうか。

暑い夏には涼感グッズ

連日各地で猛暑日・真夏日という単語を拝見する今日この頃、皆様如何お過ごしでしょうか。この暑さを凌ぐために様々な涼感グッズが発売されており、年々効果も増しているように感じます。外作業されている方たちはほとんどといっていいほど空調服を着用されています。そして最近ではワイシャツや背広着用時でも違和感のない着るエアコンなるものまで販売されており、いかに近年の暑さが厳しいかを物語っているかのようです。

そこで我が家でもお出かけ時の涼感グッズを何か入手しようと探していたところ、妻がアイスリングなるものを発見。「28 くらいの温度帯で凍る性質を持つ素材を用いた冷却アイテム」という、ゴリゴリの文系を歩んできた私には全く理解のできない未知のアイテムを探すミッション(子供用、妻用、自分用。重要度順)を与えられたところ、販売されているであろう店舗を何か所回って店員の方に伺ってみても「売り切れ次回入荷未定」の回答ばかり...

巨大なショッピングモールを何周かしたところでやっとの思いで見つけたのは子供用の S サイズ! ミッション 1 クリアー。その店舗では他サイズは売り切れとすることで他サイズを滝の汗を流しながら探しに向かっているところ妻から電話に着信アリ、義母が妻用を別店舗にて購入したのでミッション終了帰宅せよとのこ

と。おや、私のは? と思いながら駐車場に向かう途中、ふと目をやると大きなペットショップにアイスリングが売られている。そこには「大きなイヌ用」と書かれたコーナーにアイスリングが 1 個だけ残されている。私は「大きなヒト」ではあるが...。滝の汗を流しながら数分巨体を揺らしながら逡巡する様は傍から見たら滑稽なのか恐怖なのか。ヒトとしてのプライドを失いかけて手を伸ばそうと思ったところ、私と同じくらいの年齢の男性がスッと横から手を伸ばしアイスリングを手にスマートにお会計をすまし男性は近くの家族のもとへ(大きなイヌ用に使われるのだろうか)。ギリギリのところヒトとしてのプライドが保てた私も愛する家族のもとへ。

肝心の効果の程はまた別の機会でご報告できればと思います、気になる方は製粉ミックス事業本部営業一部までお問い合わせください。

(F・I)



 千葉製粉株式会社

製粉・ミックス事業本部

Tel:043-241-0116 Fax:043-241-0611 E-mail:seifun-mix@chiba-seifun.co.jp

【重要】本レポートは、あくまで小麦粉関連の情報提供を目的に作成されたものです。信頼できると思われる 公開情報に基づき作成されておりますが、その情報の正確性・完全性を保証するものではありません。読者の皆様におかれましては上記ご留意の上、ご覧くだされば幸いです。皆様に未永くご愛読いただけるよう執筆者一同精進いたしますので、引き続き宜しくお願ひ申し上げます。